

「小樽観光都市宣言～“今こそ”の心意気～」(素案)に対して提出された意見等の概要及び市の考え方等

- | | |
|----------------------|-----|
| 1 意見等の提出者数 | 2 人 |
| 2 意見等の件数 | 6 件 |
| 3 上記2のうち計画等の案を修正した件数 | 0 件 |
| 4 意見等の概要及び市の考え方 | |

No	意見等の概要	市の考え方等
1	「小樽のまち」について、日本のどこにでもあるような美しい表現をしています、観光客を引きつける目玉がありません。小樽の印象を強める具体的な地名など特徴の一つは加える方が良いと思います。また、小樽周辺の朝里川温泉、赤井川、ニセコ、積丹、蝦夷富士などを滞在延長に活用したらどうでしょうか？	小樽市観光基本計画においては、本市の観光振興を着実に進めていくために、小樽観光の重点地域として5つの地域を設定し、それぞれの地域の目指すべき方向を示す中で、特色ある観光地づくりを推進することとしております。「観光都市宣言」は、まちを挙げて取り組むことの意味表示であり、市内の特定の地域のみを対象としたものではないことから、具体的な地名の表記は避けたものです。 また、宿泊滞在型観光への移行については、小樽を含めた広域観光プロモーションの推進を、観光基本計画に位置付けております。
2	観光入込客数が減少は、日本、中国、韓国、台湾、ロシアなどのどこの国なのだろうか？ 小樽市民がもう一度行きたい、観たいと思うところが正直あるだろうか？この点を課題の検討に含めたほうが良いと思います。	本市を訪れる観光入込客数落ち込みの主たる要因は、国内観光客の減少によるものです。 また、平成15年度に実施した「小樽市民観光意識調査」により、市民の観光に対する考え方を把握し、それらを踏まえた中で、観光基本計画における現状と課題を整理し、同計画に反映しているところです。
3	小樽観光の更なる発展を阻害している要因を、観光客にアンケート調査などを行っているのか？ 観光客が小樽に何を求めてくるのか、把握しているのかどうか？ 小樽の観光宣伝(計画)の反省が、次年度の観光基本計画に反映されているのかどうか？	観光客に対する調査については、平成15、16年度に「小樽市観光客動態調査」を実施しており、今年度、5年ぶりに同調査を行っているところです。 観光基本計画の目標年次は、平成18年度から向こう10年間としておりますが、改善すべき点があれば、年度ごとの事業実施の中で、適宜対応することとしております。
4	観光の新たな展開を目指すとして、4つの方策を示しているが、そのために何をすることが重要ですか。 市民の行動指針を具体的に示す時期にあると思います。 民間と行政が協働で観光のまちづくりを進めるとあるが、お祭りなどのイベントを指すのか何なのかが分からない。 観光振興にまちをあげて取り組むとあるが、土日などはシャッターが閉まっている店が多く買物などができないのが現実。これを何とかしようという考えなのだろうか？ 市民一人一人が観光のまちづくりの主役となりとあるが、一体どのような役割を担えばよいのだろうか？「小樽気質」とか、ふれあいを通じとあるが、市民一人一人にこれを求められるのだろうか？また、求めても受け入れられるのだろうか？もっと内容の開示が必要である。 より質の高い時間消費型観光を目指すことは重要なことですが、滞在延長は結果であり、そのための施策を全面的に据えることが不可欠である。	現在、観光都市宣言とは別に、市民の行動指針的なものについても、検討を進めております。 また、各項目の御意見については、観光基本計画において、それぞれ次のような方向性を示しているものです。 民間と行政とが協働で進める「観光のまちづくり」については、単にイベントでの協働を指すのではなく、市民、観光事業者、観光関連団体、経済界、そして行政のそれぞれの役割を定め、それらが連携して観光振興に努めることとしております。 観光振興への取組については、「観光客の満足度を高める」「宿泊滞在型観光への移行を進める」「観光の経済波及効果を高める」の3つを目標に、協働して行うこととしております。 市民の役割については、市民自身がまちづくりの主役であるとの認識に立ち、観光地としての郷土の魅力を再発見し、観光客を温かく迎える親切なおもてなしの心を持って、観光客との積極的な交流に努めることとしております。 現在、本市観光の目指すべき姿の実現に向けて、取り組むべきメニューの検討を行っております。その中で、より質の高い時間消費型観光のまちの実現を目指してまいります。

№	意見等の概要	市の考え方等
5	素案に追加したほうが良いと思う事項 小樽観光都市宣言がアジアそして世界平和の掛け橋として貢献できることを切に願うものである。	観光都市宣言は、観光振興にまちを挙げて取り組むことの意味表示として「観光都市・小樽」を市内外に広くアピールするものであり、世界平和の貢献については、別の取組により実現すべきものと考えております。
6	素案を生かしながら、修正と加筆をさせていただきました。 私のまち「小樽」は、心なごます海や山の美しい自然と夢がわく多彩な四季の風景に恵まれ、また明治・大正・昭和の時代の繁栄を今に伝える運河や歴史的建造物に恵まれ、さらに文化・芸術・産業や市民の暮らしが幾世代にも亘って受け継がれ、これらが多様な観光資源として生きついている魅力のある都市です。 「小樽」は、まちの将来を巡る運河の保存を契機に観光都市として発展し、今や観光はまちの基幹産業にまで成長しました。 しかし、「小樽観光」がますます発展するためには、観光に対する市民意識の向上をはじめ、新たな観光資源の発掘や訪れる人びとの滞在時間の延長など、いくつかの課題を克服する必要があります。 このような中で、これからの「小樽観光」に求められること…。 それは市民一人一人が観光のまちづくりの主役として、人情味あふれる「小樽気質」でお客様をお迎えし、小樽の文化・芸術・産業や市民の暮らしとのふれあいを通じて多くのお客様に新しい感動と発見に出会っていただくとともに、ゆっくりと時間をかけて「小樽」を楽しんでいただくことです。 それが、私のまち「小樽」にとって、何物にもかえられない喜びなのです。 今こそ、「小樽」は、多くの人びとに愛されて、より長く滞在したくなる観光のまちであることを目指し、ここに「観光都市・小樽」を宣言します。	表現方法等に違いはありますが、宣言が意図している内容については、本質的に同様であると考えております。

* 同じ内容の意見が複数ある場合は、「意見等の概要」の最後に件数を記載してください。

* 計画等の案を修正した場合は、「市の考え方等」の欄に修正箇所を併せて記載してください。